

おはなしだより 6月

<年長>

わたしのかさはそらのいろ

作: [あまん きみこ](#)

絵: [垂石 眞子](#)

出版社: [福音館書店](#)

女の子が青い傘をさして「わたしの かさは そらの いろ あめのなかでも いい てんき」と歌っていると、動物たちが「いーれて」と言いながらとびこんできました。



キリンですけど

文: [高倉 浩司](#)

絵: [丸山 誠司](#)

出版社: [絵本館](#)

キリンだって あこがれる
キリンだって ゆめをみる
自分とはちがう何かになれたなら・・・と

ふくらむおもい
ゆめみるキリンが
さいごに気づくことは・・・

<年中>

ぼく、あめふりお

作・絵: [大森 裕子](#)

出版社: [教育画劇](#)

てるてるぼうずなのに、ぼくのいくところはいつも雨・雨・雨。
しとしと雨の日は、あなたの街に『あめふりお』がやってきている
のかもしれません。雨の日がちょっと待ち遠しくなるかわいい絵本。



ねーねーのしっぽ

作: [はやし ますみ](#)

出版社: [イースト・プレス](#)

みどりがいけに住んでいるのは、歌の上手なかえるのおとうさん、かえるとび名人のおかあさん。そしてかわいいおたまじゃくしの子どもたち。

あれれ、いっぴきだけなんだかすごく大きなおたまじゃくしがいるようだけど・・・？

それがこの絵本の主人公の女の子「ねーねー」です。ねーねーは小さいもうとたちに慕われて、おとうさんやおかあさんには「さぞかしりっぱなかえるになるだろう」と期待され、とても幸せに暮らしていました。

ところが夏がきて、みんながかえるになっても、ねーねーの姿は変わりません。どんどん大きくなるけれど、みんなと同じことができるようにはならないのです。それどころか、家にも入れなくなるし、うっかりあくびをすればみんなを吸い込んでしまいそうになるし。

<年少>

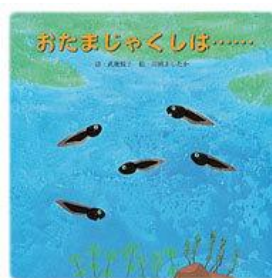
おたまじゃくしは・・・

作: [武鹿 悦子](#)

絵: [田頭 よしたか](#)

出版社: [ひさかたチャイルド](#)

池の中のおたまじゃくしたち。やがて成長してかえるになった時、初めて出会ったものとは・・・？情緒あふれる世界を季節感たっぷりに描いた詩の絵本。



はみがきれっしや

しゅっぱつしんこう！

作: [くぼ まちこ](#)

出版社: [アリス館](#)

歯磨きがきらいなたっくん。でも、「しゅっしゅっぽー！」と、はみがきれっしやがやってくれば、どんな子の口もあーんと開きます！前の歯についたにんじん、奥の歯にはさまったおにく、つぎつぎきれいにしていきます。歯への興味も深めます。